

気運醸成分科会の取組

東京都ボランティア活動推進協議会
気運醸成分科会

2017年1月22日（日曜日）

I. 気運醸成分科会の設置について

東京都ボランティア活動推進協議会

大会関連ボランティア分科会

分科会会長：オリンピック・パラリンピック準備局長

活動内容

- ①大会関連ボランティアに関する情報提供、裾野拡大及び気運醸成
- ②分科会メンバーによる各種育成取組への支援・促進

気運醸成分科会

分科会会長：東京ボランティア・市民活動センター所長

活動内容

- ①様々な主体が活動を行うために、構成団体がどのような取組を行っていくかの検討
- ②ボランティア活動の気運醸成・裾野拡大につながる情報の収集・発信

II. 気運醸成分科会での検討の概要

●構成団体

分野等	団体名称
企業関係	東京商工会議所、(一社)日本経済団体連合会 (公社)経済同友会、(公社)企業メセナ協議会
教育関係	公立大学法人首都大学東京、国立大学法人東京外国語大学
NPO関係	認定NPO法人カタリバ、認定NPO法人難民支援協会
中間支援関係	(社福)東京都社会福祉協議会、(社福)荒川区社会福祉協議会、 (社福)調布市社会福祉協議会
地縁団体関係	東京都町会連合会
行政関係	東京都生活文化局

●開催状況

第一回気運醸成分科会

日時 平成28年10月4日 15時～17時

第二回気運醸成分科会

日時 平成28年12月20日 10時～12時

Ⅱ. 気運醸成分科会での検討の概要

気運醸成分科会では、下記の項目について、議論を行った

1 気運醸成や裾野拡大に向けた取組について

(1) 情報の収集・発信について

(2) 気運醸成の取組に参画する団体等の拡大や、
様々な団体等との連携について

(3) 学生等、若者のボランティア活動の推進について

(4) ボランティア活動を希望する個人・団体とボランティア
活動とのマッチング等について

2 気運醸成分科会の構成団体が、それぞれの立場から どのような取組を行うことができるのか

Ⅲ. 検討の状況（中間報告）①

1（1）情報の収集・発信について

○関心がない人向けには、様々な活動事例等を一覧で示すポータルサイト等が有効

○情報を発信する際には、様々な団体の媒体を活用していくことが効果的

○参加意欲のある人向けには、関心があるテーマに沿った活動の紹介が有効

Ⅲ. 検討の状況（中間報告）②

1（2）気運醸成の取組に協力する団体等の拡大や、様々な団体等との連携について

○特徴のある活動をしている企業や団体が、連携していくことが重要

○多くの企業・団体等に気運醸成の取組に協力してもらうためには、協力してもらう具体的内容を示すことが必要

○地域のボランティア団体と企業、教育機関との連携には、きっかけや交流の場づくりが重要

Ⅲ. 検討の状況（中間報告）③

1（3）学生等、若者のボランティア活動の推進について

○東京2020大会以降も考えると、学生等の若者への働きかけは重要

○教育機関では、ボランティア活動は、教育の一環であり、事前・事後での学習が重要

○世代の異なる学生や企業の社員等と一緒に取り組むことで活動に対する意識や意欲が高まる

Ⅲ. 検討の状況（中間報告）④

1（4）ボランティア活動を希望する個人・団体とボランティア活動のマッチング等について

○ボランティアを希望している人・団体は多いが、実際に活動に結び付けていくためには、コーディネートが重要

○受入先としては日常業務に追われ、十分なコーディネートを行う余裕がないことが多い

○好事例の背景には、良いコーディネートが存在。事例紹介の場合は、コーディネート事例の紹介が重要

Ⅲ. 検討の状況（中間報告）⑤

2 気運醸成分科会の構成団体がそれぞれの立場からどのような取組を行うことができるのか

- 各構成団体の持つネットワークや媒体を活用し、ボランティアに関する情報発信が可能
- 傘下の団体を集めた勉強会等で、様々な事例について、成功失敗の要因も含めた情報共有を行う方法もある
- 他の団体の気運醸成に関する取組について、傘下の団体に紹介していきたい

IV. 今後に向けて

以下の事項を中心に今後、具体化を図り、気運醸成の取組を実施していく

(主な論点)

- 関心がない人の参加意欲を高めていくために必要な情報発信について
- 今後、協議会の取組に協力する企業・団体を拡大する方策等について
- ボランティア文化定着に向けた、大学等と連携した若者への働きかけについて
- 人と活動を結びつけるコーディネート機能の強化の方策について
- 情報発信等、各構成団体が行う取組について